

神戸「ガーデンシティ舞多聞」

みついけプロジェクト7、てらいけプロジェクト3

GARDEN CITY MAITAMON IN KOBE,

MITSUIKE Project7, TERAIKE Project3

鎌田 誠史 国立有明工業高等専門学校 建築学科 准教授
齊木 崇人 大学院芸術工学研究科 教授
佐々木 宏幸 デザイン学部環境・建築デザイン学科 特別准教授
谷口 文保 先端芸術学部クラフト・美術学科 講師
久本 直子 デザイン学部ビジュアルデザイン学科 助教

Seishi KAMATA Department of Architecture, Ariake National College of Technology, Associate Professor
Takahito SAIKI Graduate School of Arts and Design, Professor
Hiroyuki SASAKI Department of Environmental Design, School of Design, Special Associate Professor
Fumiyasu TANIGUCHI Department of Crafts and Arts, School of Progressive Arts, Assistant Professor
Naoko HISAMOTO Department of Visual Design, School of Design, Assistant Professor

要旨

「ガーデンシティ舞多聞」の第1工区目である「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクトは、都市再生機構と神戸芸術工科大学、そして住民との連携で進められている宅地開発プロジェクトである。新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指すこのプロジェクトは、約6haの面積に、宅地68区画、緑地公園、街区公園、共同施設(コミュニティスペース)が配置される。

また、ガーデンシティ舞多聞の西端部に位置する、自然地形を活用した「てらいけプロジェクト」(約10ha)を現在整備している。「みついけプロジェクト」「みついけ南プロジェクト」の経験をいかし継続的な住宅コミュニティの創造と日本の住宅が抱える課題の解決を目指している。

本年度は、てらいけプロジェクトの「スペースデザイン」、「まちづくりのルール」、「住まいづくりデザインガイドライン」、「住民参加型プロセスの検討」、てらいけの目指すまちづくりの「公開講座」、みついけプロジェクトのコミュニティマネジメントの実践として「ネイチャーアートワークショップ」、「絵本づくりプロジェクトと読み聞かせワークショップ」、「ガーデンシティ舞多聞HPの再構築」について言及した。

Summary

The area developed in the first phase within The Garden City MAITAMON Project is named MITSUIKE. The MITSUIKE project is a residential development project that has been implemented through collaboration between KDU, UR and the residents.

Furthermore, the project to develop TERAIKE Community (approx. 10 ha), located in the westernmost part of the Garden City MAITAMON, is currently under way, making effective use of natural geographic features. Capitalizing on the experience of the MITSUIKE Project and the MITSUIKE MINAMI Project, the TERAIKE Project aims to create a sustainable residential community and to resolve the aforementioned challenges confronting Japanese housing.

On this year, from TERAIKE project, we report about space design, rule of community, design guidelines of housing, and process including residential participation. And, from community management of MITSUIKE project, we report nature art workshop, picture book project, and reconstructing project's web design.

0はじめに

0-1 「ガーデンシティ舞多聞」の概要

新しい郊外居住の形を目指す「ガーデンシティ舞多聞」は、神戸芸術工科大学の約1km南に位置する、旧舞子ゴルフ場(約108ha)で開発中のプロジェクトである。施行者の都市再生機構は、計画人口約8,400人、計画戸数約2,600戸を予定し、2018年の事業完成を目指している。神戸芸術工科大学は、2001年より、事業協力者として、プロジェクトの「スペースデザイン」「コミュニティづくり」「エリアマネジメント」をサポートしつづけている。2007年3月25日には、「舞多聞まちびらき記念式典」「舞多聞まちびらきフェスタ」が行われた。(図0-1-1, 0-1-2)



図0-1-1 「ガーデンシティ舞多聞」空撮(写真:都市再生機構2007)



図0-1-2 「ガーデンシティ舞多聞」位置図

第一工区「みつけいけプロジェクト」(約6ha)は、旧ゴルフ場の起伏のある地形や斜面緑地を生かし、緩やかな曲線を描く道路、約120～500坪(平均約220坪)のゆとりある宅地68画地、街区公園(舞多聞みつけいけ公園)、都市計画緑地(学園南緑地)、コミュニティ施設

(舞多聞まちづくり館)が配置され、自然豊かな居住環境を実現している。(図0-1-3)

第二工区「みつけいけ南プロジェクト」(約3ha)は、「みつけいけプロジェクト」の南西部に位置する。全82画地のうち、23画地は、ワークショップで事前に形成したグループ単位で応募する「グループ申込型宅地分譲」が採用され、2007年春に宅地引渡しが行われた。

最終工区「てらいけプロジェクト」(約10ha)は、「ガーデンシティ舞多聞」の西端部に位置している。現在、神戸芸術工科大学と都市再生機構は、「みつけいけ」「みつけいけ南」の経験を生かした、「てらいけ」の「スペースデザイン」「コミュニティづくり」「エリアマネジメント」の実施方策について、検討を進めている。(図0-1-4)



図0-1-3 みつけいけ地区のまちなみ

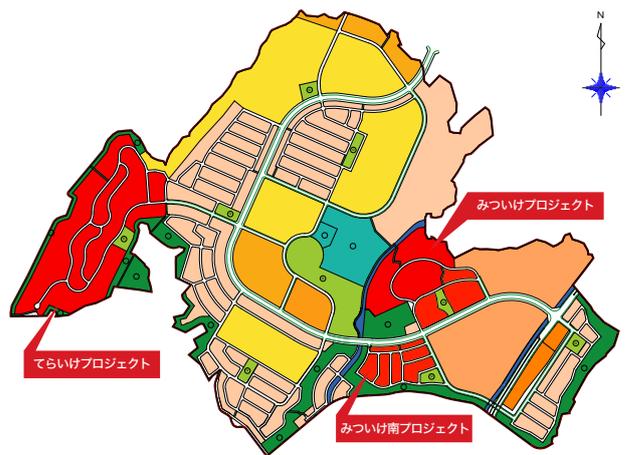


図0-1-4 「みつけいけプロジェクト」「みつけいけ南プロジェクト」「てらいけプロジェクト」位置図

0-2 研究の経緯

本稿は、2001年から神戸芸術工科大学が都市再生機構の事業協力者としてサポートしている「ガーデンシティ舞多聞」の実践に関する研究報告である。

同研究の報告は、2004年度から継続的に神戸芸術工科大学紀要に発表してきた。

また2008年度からは、最終工区である「てらいけプロジェクト」についての進行状況の報告を行っている。

本年度は、てらいけプロジェクトの「スペースデザイン」、「まちづくりのルール」、「住まいづくりデザインガイドライン」、「住民参加型プロセスの検討」、てらいけの目指すまちづくりの「公開講座」、みついけプロジェクトのコミュニティマネジメントの実践として「ネイチャーアートワークショップ」、「絵本づくりプロジェクトと読み聞かせワークショップ」、「ガーデンシティ舞多聞HPの再構築」について言及する。

1 てらいけプロジェクトの実践

最終工区「てらいけプロジェクト」(約10ha)は、「ガーデンシティ舞多聞」の西端部に位置している。現在、神戸芸術工科大学と都市再生機構では、「みついけ」「みついけ南」の経験を生かしたてらいけエリアの「コミュニティデザイン」「スペースデザイン」「エリアマネジメント」の実践について、検討が進められている。(図1-1-1)

1-1 てらいけプロジェクトの経緯

都市再生機構と神戸芸術工科大学は、「みついけの経験を生かし、みついけ以上のクオリティを確保」を目標として、てらいけプロジェクトの検討を進めている。

これまでには、プロジェクトを通して実現すべき目標を定めるために周辺地域を中心にアンケート調査が行われ、次いでコンセプトシートとマスタープランの作成、住民参加型プロセスに基づく公開講座とワークショップを実施しながらプロジェクトを推進してきた。

2010年度は、プロジェクトの目標像を共有するため、プロジェクトのコンセプトシートを作成した。

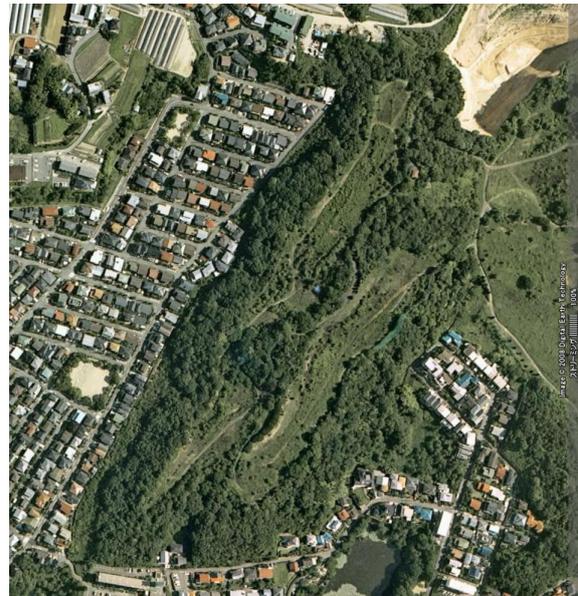


図1-1-1 てらいけプロジェクト現況 (google earth)

1-2 てらいけのスペースデザイン

てらいけのスペースデザインについて、前年度までに全体のマスタープラン、各敷地条件ごとの検討を行ってきた。(図1-2-1)

マスタープランは2008年度から検討が行われ、ここでは全体像が示され、宅地割りにも反映されている。その後、UR都市機構の販売事業との事業採算性も含めて毎年検討を行ってきた。

本年度も引き続き検討が行われ3つの提案が出された。1つ目は複数の宅地の一部をコモンスペースとすることで、生活空間と公共空間を共に充実させていく提案。2つ目は電線の地中化について。3つ目は地区内における街区公園の他に計画されているコミュニティ集会施設用地の提案である。



図1-2-1 てらいけプロジェクトマスタープラン

1-2-1 電線の地中化と建柱に伴う影響についての検討

電線の地中化は道路空間の積極的な利用を促すことや景観として質の高い公共空間を創出することが期待できるが、その際の費用負担が課題となる。

前年度までの提案の際には宅地の背割り側に電線を通す裏建柱による対応も検討された。

これまでの検討を踏まえ、本年度は、「地中化」と「建柱」における「公共空間への影響」「建築への影響」「販売価格」「その後の運営への影響」についてそれぞれ分析を行った。

敷地背割りに建柱する、いわゆる「裏建柱」についてはメンテナンス用の空間を必要とするため、敷地内の建物壁面セットバック範囲の検討も行った。

検討の結果、建柱を行う際には既存の緑地を伐採する必要があり、自然景観への影響が問題点としてあげられた。てらいけプロジェクトが、みついけプロジェクトと同様に自然住宅地として売り出すことを考えると、建柱を行うことが当プロジェクトの特に景観面における根幹に関わる問題であると言える。

1-2-2 コミュニティ集会施設用地の検討

コミュニティ集会施設用地(コミュニティ形成支援施設予定用地)は、てらいけプロジェクトの活動や集会を行うことを目的に計画されている。

本年度検討された内容は、敷地の規模と施設等の配置である。

この敷地は東西に3mの傾斜があり、東面にある街区公園との一体的な使い方、集会施設の配置場所、必要機能の検討が課題となったが、今年度は2案作成し、検討を進めている。(図1-2-2, 1-2-3)

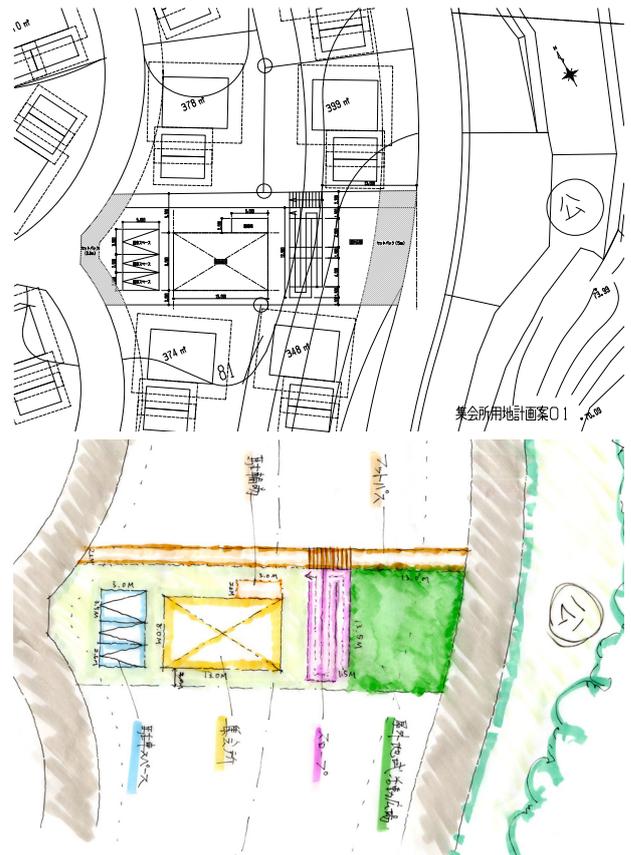


図1-2-2 2010年度てらいけコミュニティ集会施設用地の検討案1

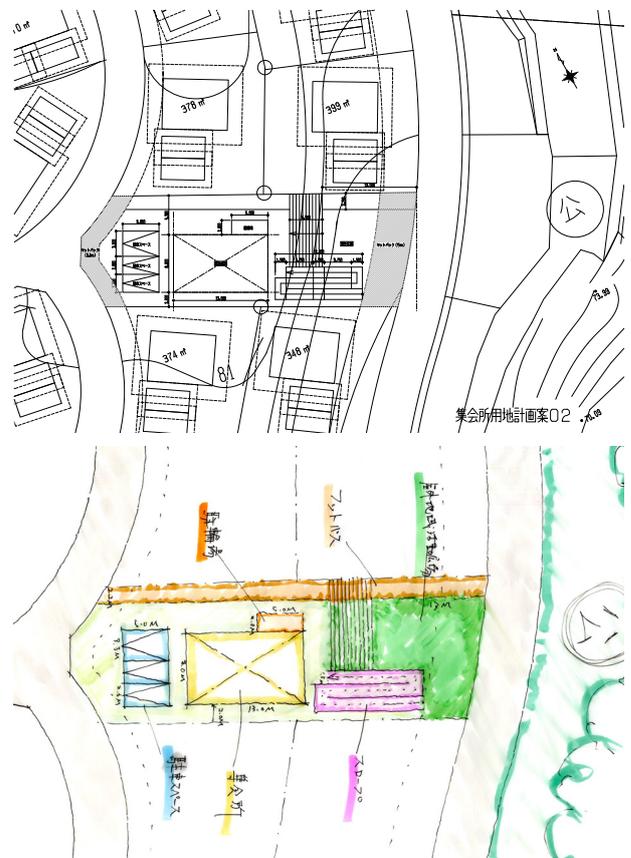


図1-2-3 2010年度てらいけコミュニティ集会施設用地の検討案2

1-2-3 てらいけプロジェクト導入路の検討

てらいけプロジェクトへの導入路の検討を行った。これは、てらいけプロジェクト導入部の道路空間における、街路樹や住宅のガイドラインによるまちなみ景観のコントロールが目的である。

てらいけプロジェクト導入路は他地区からのエントランスとして演出すると共に、自然住宅地としての雰囲気他地区へ啓蒙することも期待できる。(図1-2-4)

具体的な空間の検討は次年度以降となる。

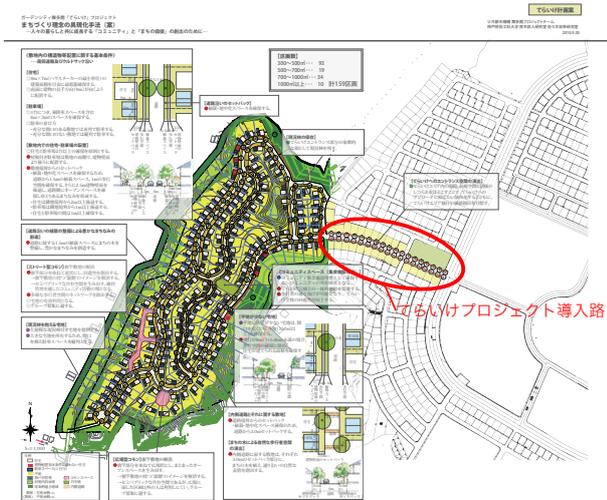


図1-2-4 てらいけプロジェクト説明図(導入路追加図)

1-3 まちづくりのルールについての検討

2009年度に引き続き、みついけプロジェクトのルールをベースにてらいけプロジェクトのまちづくりのルールの検討を行った。

既に入居が始まり、自治会と協定運営委員会が組織されているみついけ地区(舞多間東3丁目)、みついけ南地区(舞多間東2丁目)では、「建築協定」、「緑地協定」、「ガイドライン」などによって、まちなみの誘導が行われている。建築協定、緑地協定、ガイドラインについては、住民組織による建築・緑地協定運営委員会によって、それぞれの地区内の新築・増築・外構の申請に対しての許可審査と調整を行っている。

てらいけプロジェクトで運用されるルールについては、みついけプロジェクトと同様に、次年度以降の公開講座と住民参加型のワークショップを通して住民とともに内容についての検討を行う予定であり、本年度

はこれからワークショップと公開講座を通してルールを検討するプロセスと、最終的なルールの全体像の構造について検討した。

1-3-1 ルール検討のプロセス

てらいけプロジェクトにおけるまちづくりのルールは、住民参加型のワークショップを通じて住民と共に創り上げていくことを目標としている。

プロジェクトチームでは、ルール策定のためのステップとして大きく「step-1. 提案」「step-2. 調整」「step-3. 決定」の3つのステップを提案した。この3つの段階を通して、まちづくりのルールとなる建築・緑地協定の内容の提案や合意形成を行い、将来住民が自らのまちを運営するためのオーナーシップを獲得することを目指している。(図1-3-1)

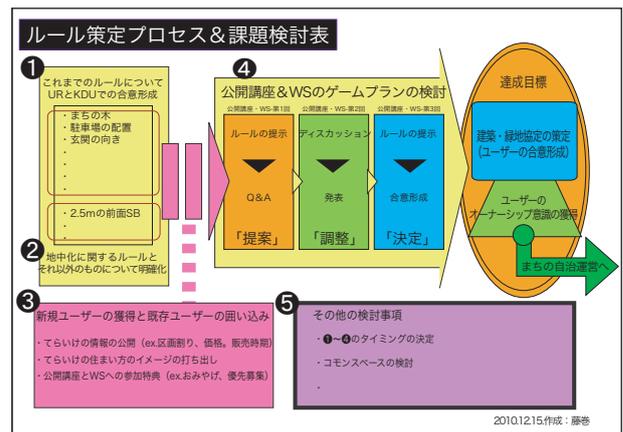


図1-3-1 2010年度ルール策定プロセス&課題検討表

1-3-2 目標ルールの構築

まちづくりのルールを決定する3つのプロセスの実行に先立ち、UR都市機構と芸工大のプロジェクトチームで最終的に目指すルールを検討した。

内容については数年に渡って検討を重ねてきた、てらいけプロジェクトのマスタープランとコンセプトシートから、我々が目指す空間創出のために必要と思われるルールを抽出した。

抽出したルールの内容は大きく3つの項目に分けられる。

- a : 建物と道路との関係に関するルール
- b : 外部空間のデザインに関するルール

c：建物のデザインに関するルール

aは①建物と道路の関係、②隣地との関係、bは①植栽、②駐車場・設備機器、cは形状・色・素材について分類された。

これらのルールは今後、住民参加型ワークショップで検討する内容であり、実際に運用される建築・緑地協定の検討により、修正されながら実行することになる。

1-4 住まいづくりデザインガイドライン

住まいづくりデザインガイドブックは前年度に作成した外構ガイドラインをベースに修正を加え、新たなコンテンツの追加により今年度作成されたガイドブックである。

外構デザインガイドラインは、みつけ、みつけ南、てらいけの3プロジェクト以外の地区を対象に昨年度作成された。ガイドライン自体は法的規制能力を持つものではないが、舞多聞全体として良好な居住環境の形成を計っていく効果を狙っている。

本年度の住まいづくりデザインガイドブックは、現在入居が進んでいる舞多聞の地区、特に幹線道路沿いの景観向上を目的に、昨年度の外構ガイドラインに追加提案された。提案に際して、まず舞多聞全体の調査が行われた。道路と敷地の接地状況、敷地の形状などの条件、周辺条件によって、住居の裏となる部分（窓量の少ない壁面）、室外機等の生活機器の設置場所、が主要な道路側に現れている事例が多いことが確認された。(図1-4-1)

これらの問題に対して、家を建てるプロセスごとに、良好な居住環境のつくり方や考え方をアドバイスする方式のガイドブックの作成が提案された。

以上を踏まえて作成されたデザインガイドブックは、「step-1. 家を建てる前に考えてほしいこと」「step-2. 家を建てる際に気にしてほしいこと」「step-3. 家を建てた後に行ってほしいこと」と、建築を行う段階に応じて、それぞれアドバイスを行うような形式となっている。(図1-4-2, 1-4-3, 1-4-4)

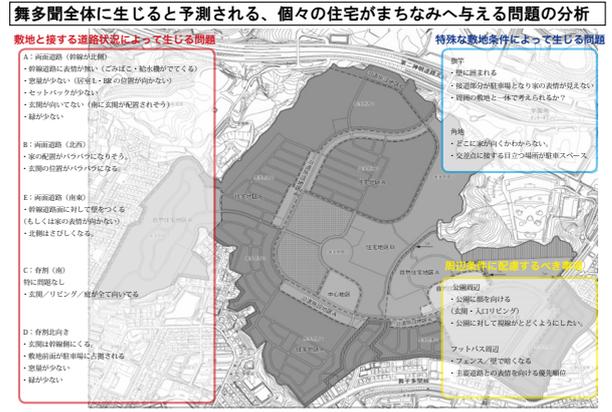


図1-4-1 舞多聞全体で予測される、住宅がまちなみへ与える問題の分析



図1-4-2 ガーデンシティ舞多聞住まいづくりデザインガイドブック



図1-4-3 ガーデンシティ舞多聞住まいづくりデザインガイドブック

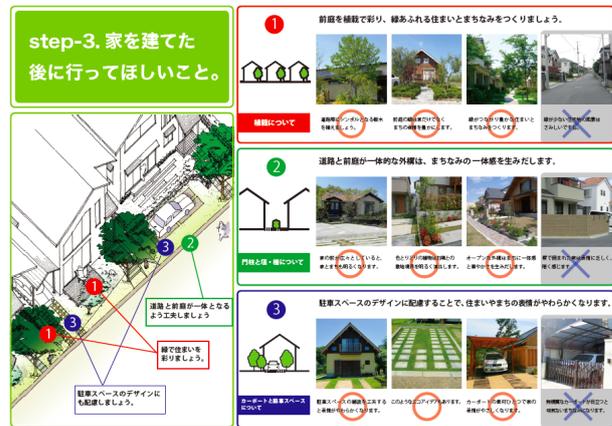


図1-4-4 ガーデンシティ舞多聞住まいづくりデザインガイドブック

1-5 住民参加型プロセスの実践

住民参加型プロセスは、主にてらいけプロジェクトのコミュニティ形成と空間形成を、それぞれ実現していくためのプログラムを指している。(図1-5-1)

具体的には、公開講座とワークショップを通じてプロセスごとに検討を行っていくことで、段階的にてらいけプロジェクトの計画を実現していくプログラムとなっている。

本年度は、このプログラムの一環として企画された、第3回公開講座「住まい手とプランナーが魅せる舞多聞のまちづくり」について報告する。

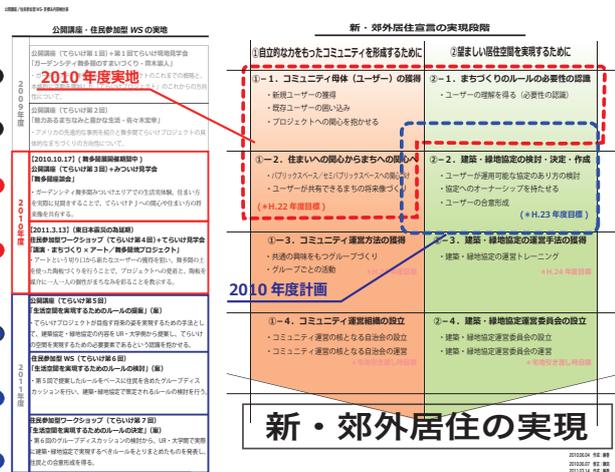


図1-5-1 公開講座＆WSプログラム課題の検討表

1-5-1 第3回公開講座

「住まい手とプランナーが魅せる舞多聞のまちづくり」

2010年10月17日(日)午後2時より、ガーデンシティ舞多聞 てらいけプロジェクト 第3回公開講座「住まい手とプランナーが魅せる舞多聞のまちづくり」が行われ、29組39名が参加した。第1部のトークセッションでは神戸芸術工科大学学長・齊木崇人をコーディネーターとして舞多聞東3丁目の住民の方々、都市機構の職員によって白熱したトークセッションが行われた。当日は、芸工大齊木が会場のパネルを紹介しながらガーデンシティ舞多聞の経緯を説明し、展示会場を巡りながら舞多聞の10年の歩みを振り返り、続いて、齊木がコーディネーターとなり、舞多聞みつけエリア(舞多聞東3丁目)の初代自治会長をされた中尾氏、二代目自治会長をされた塩月氏ご夫妻、舞多

聞エコ倶楽部の世話役をされている竹内氏ご夫妻、住民である原田氏をパネリストとして、トークセッションを行った。また、都市機構からは、ガーデンシティ舞多聞の土地区画整理事業施行者である神戸西開発事務所所長の北村、調整役の橋本、前担当者である島岡(飛び入り)が出席し、「みついけに入居するまでのいきさつ」「家と庭づくりの経験」や「日々の暮らしぶり」、そして「未来のてらいけ住民とのコミュニティづくり」など、各自の想いを語った。トークセッションの中で齊木のガーデンシティ舞多聞の思い出話の問いかけには、発言者の想いが溢れ当時の情熱と苦労話が語られたが、その中でも共通して、住民参加のまちづくり、住む前からコミュニティを形成することの大切さ、また自然に囲まれて暮らすことの快適さなどが生き生きと語られた。(図1-5-2)

第2部の「みついけ見学会」では、実際にみついけプロジェクトのまちなみや住宅を見学し、自然住宅地プロジェクトを体験した。見学は、3班にわかれて、旧ゴルフ場跡地の地形を活かしたなだらかな曲線をもつまちなみを見学し、実際のみついけの住宅や庭等を案内してもらい、各住宅のセットバックや緑地のまちづくりのルールについて説明があった。



図1-5-2 公開講座の様子

2 コミュニティマネジメントの実践

2001年から神戸芸術工科大学は、都市再生機構の事業協力者として「ガーデンシティ舞多聞」のコミュニティデザインとコミュニティマネジメントをサポートしている。

実践内容は、2007年度から継続的に進めてきた自然とふれあうワークショップと絵本づくりプロジェクト、絵本読み聞かせワークショップ、その絵本原画展、造形ワークショップの開催について言及する。

2-1 ネイチャーアートワークショップ実施報告

2-1-1 ワークショップの経緯

舞多聞プロジェクトでは、2007年よりアートを介したコミュニティづくりをガーデンシティ舞多聞内で行っている。

UR都市再生機構と神戸芸術工科大学主催の「緑地管理ワークショップ」は、「みついけ」「みついけ南」に住まう人々を対象に行われているワークショップである。旧舞子ゴルフ場の斜面緑地が残された「学園南緑地」と、隣接する「舞多聞まちづくり館」をフィールドとして継続的に開催されている。「学園南緑地の緑地管理」と、「舞多聞ネイチャーアート」の2つのプログラムが同時に開催されている。

「学園南緑地の緑地管理」の「住まう人自らの手による共有財産(緑地)の管理」、「舞多聞ネイチャーアート」の「身近な自然物を用いたアート作品づくり」、これらを通じて、「コミュニティのつながり」「自然とのふれあい」「アートへの関心」を深めることを目的としている。

2009年3月8日と29日に行われた、「自然と出会う、動物をつくろう」のアートワークショップは、「ガーデンシティ舞多聞」に植生している樹木を使った動物の造形物をつくるプログラムで、参加者が、アートを通じて、ガーデンシティ舞多聞の自然環境に親しむことを目的として開催されている。

2-1-2 絵本づくりプロジェクト

過年度から実施してきた、「自然と出会う、動物をつくろう」のアートワークショップでは、「ガーデンシティ舞多聞」てらいけプロジェクト予定地に植生している樹木を使って、動物の造形物を作った。舞多聞の敷地内で実際に木を切り、その木を使って動物をつくりながら自然環境に親しんでもらうことを目的としたこの公開講座は多くの参加者を得た。

そして、この公開講座で参加した神戸芸術工科大学の学生が感じ取ったものをエッセンスとして、ガーデンシティ舞多聞を舞台に絵本の作成を行った。この絵本は、ここの土地で育つ子供達に向けて、また地域の物語として住民に語り継いでもらうことを目的としている。絵本はコンペ形式で数名の学生の作品の中から審査会によって1作品を選定する方式を採用した。

2010年3月12日には、UR都市機構の関係者、こどもコミュニティケアの代表、神戸芸術工科大学の教員による絵本コンペ審査会が開催され、審査の結果1作品「ちいさなきとはじまりのまち」が選出された。(図2-1-1)



図2-1-1 完成した絵本「ちいさなきとはじまりのまち」

2-1-3 絵本読み聞かせワークショップ

ワークショップから生まれた絵本の完成を祝して、まずはガーデンシティ舞多聞の子供達に向けて読み聞かせワークショップを実施した。2010年7月12日、ガーデンシティ舞多聞の保育園「ちっちゃなこども園にじいろ(こどもコミュニティケア)」の協力のもと、

神戸芸術工科大学の学生達が園児に絵本の読み聞かせを行った。（図2-1-2）

読み聞かせは、学生ひとりに園児2～4名の3組で行われ、園児達はみな学生の読み聞かせを真剣に聞き入っていた。



図2-1-2 学生による絵本読み聞かせ (2010. 7. 12)

2-1-4 絵本の完成披露と造形ワークショップ

2010年7月24日、ガーデンシティ舞多聞内のコミュニティ施設「まちづくり館」にて、舞多聞を舞台とする絵本『ちいさなきとはじまりのまち』の完成セレモニーと、ネイチャーアート「小さな動物をつくる造形ワークショップ」が開催された。

このセレモニーは2007年から継続的に行われたワークショップから生まれた絵本の完成を記念するセレモニーで、舞多聞で育つ子どもたちにも、まちへの愛着を持ってもらうことを目的として開催された。

会場となったまちづくり館には昨春のワークショップで舞多聞の木を使って作られた動物の作品の写真と、絵本の原画が展示された。絵本完成セレモニーの後、絵を手掛けた神戸芸術工科大学の学生によって、出来上がった絵本の読み聞かせが行われた。（図2-1-3）

その後行われた造形ワークショップでは、粘土やビーズ、造成中のてらいけ地区から採取された松や、松ぼっくり等を用いて小さな動物を作成した。出来上がった動物たちは、昨春のワークショップで作られた動物に取付けられたゆりかごや船に乗せ、造形ワークショップの講評、記念撮影が行われた。（図2-1-4, 2-1-

-5)

これからゆりかごや船に乗って舞多聞を旅するとう、新たな舞多聞の物語となった。

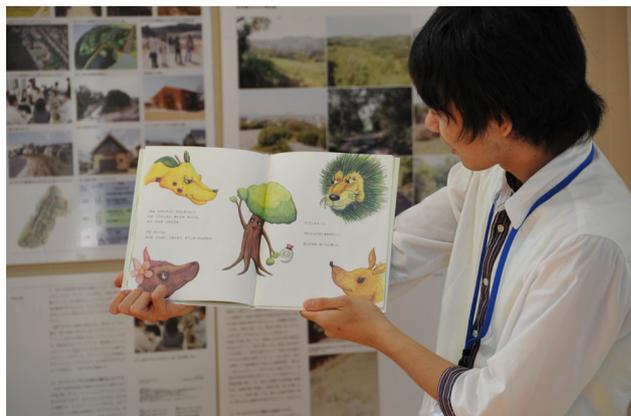


図2-1-3 学生による絵本の読み聞かせ (2010. 7. 24)



図2-1-4 造形ワークショップの風景 (2010. 7. 24)



図2-1-5 造形ワークショップの風景 (2010. 7. 24)

3 舞多聞ホームページの運営

ガーデンシティ舞多聞のホームページは、2003年12月に開設されたものであり、2007年度のリニューアルでは、みついけとみついけ南のプロジェクトの実践によって蓄積された情報の整理と、てらいけプロジェクトでの情報発信の観点からトップページのリニューアルが行われた。同ホームページは、2009年3月に更にリニューアルが行われている。

ホームページでは、舞多聞プロジェクトのこれまでの情報の蓄積と、より情報をダイナミックに発信していくために運営されている。（図3-1）

今年度は6月10日、10月1日、11月26日、2月21日、3月31日の5回に分けて、合計16ページの更新を行った。詳細については以下の通りである。

6月10日

①トップページ__レイアウトの変更

10月1日

②トップページ__第3回公開講座案内と絵本完成セレモニー開催のバナー追加

③ワークショップの案内__第3回公開講座のお知らせ

④舞多聞全体__絵本完成セレモニーのニュース掲載

⑤これから__第3回公開講座案内のバナー追加

11月26日

⑥トップページ__ネイチャーアート案内と第3回公開講座ニュースのバナー追加

⑦ワークショップの案内__ネイチャーアートのお知らせ

⑧てらいけプロジェクト__第3回公開講座のニュース掲載

⑨これから__第3回公開講座ニュースのバナー追加

2月21日

⑩トップページ__第4回公開講座案内とネイチャーアートニュースとリブコム受賞のバナー追加

⑪ワークショップの案内__第4回公開講座のお知らせ

⑫舞多聞全体__ネイチャーアート「自然の中でアートしよう」のニュース掲載

⑬これから__第4回公開講座案内のバナー追加

⑭リブコム受賞__ページ制作とUR 本社受賞記事へのリンクと学長の受賞コメント掲載

3月31日

⑮トップページ__東北地方太平洋沖地震による公開講座延期のお知らせ追加

⑯ワークショップの案内__東北地方太平洋沖地震による公開講座延期のお知らせ追加



図3-1 舞多聞ホームページ

4 今後の予定

てらいいプロジェクトは、今後公開講座とワークショップを運営しながら、居住希望者とその地区の空間のイメージやライフスタイルを共有し、それを実現させていくためのルールについて、合意形成を計りながら策定を進めていくことが予定されている。

神戸芸術工科大学では、ガーデンシティ舞多聞という大規模な自然住宅地を対象に、①自然と共存する豊かな住まい、②価値観を共有するコミュニティの形成・自立・技術支援プログラム、③地域コミュニティへの情報発信、を目指したコミュニティワークショップを開催し、コミュニティや空間の質を持続させるためのマネジメントを実践的に行ってきた。

その内容は多岐にわたり建築計画、アートワークショップ、絵本づくりなど神戸芸術工科大学の「芸術工学」の理念を実践的な研究において追求することができたことは学生ばかりでなく我々教員にとっても貴重な体験であった。今後も継続的にこのようなまちづくり活動を実施して行くことは地域にとっても本学にとっても有効な実践的研究であると言える。

謝辞

「ガーデンシティ舞多聞」が、独立行政法人都市再生機構西日本支社と業務担当者の方々、そして会員数約1,500名の舞多聞倶楽部会員の皆さんの多大なる理解と協力の下に進められてきたことをここに記します。

[参考文献]

- 齊木崇人、ロバート・フリーストーン、マウリッツ・ヴァン・ロイヤン編、『New Garden City of the 21st Century?』、神戸芸術工科大学、2002
- 齊木崇人他、『環境デザインへの招待』、神戸芸術工科大学、2004
- 齊木崇人、「住宅地におけるエリアマネジメントの展望～新・田園都市の実験～神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト」、『住宅』、2007年9月号、2007
- 齊木崇人、「新・田園都市実験 神戸「ガーデンシティ舞多聞」」、『建築とまちづくり』、No.360、2007年11月号、2007
- 齊木崇人他、「新・田園都市の実験～神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2004」』、神戸芸術工科大学、2005
- 齊木崇人他、「神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト～コミュニティづくり、住まいづくり、ルールづくり」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2005」』、神戸芸術工科大学、2006、<http://kiyou.kobe-du.ac.jp/05/report/01-01.html>、2011年10月15日確認
- 齊木崇人他、「神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト2～住まいづくり、ルールづくり、ネットワークづくり」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2006」』、神戸芸術工科大学、2007、<http://kiyou.kobe-du.ac.jp/06/report/04-01.html>、2011年10月15日確認
- 齊木崇人他、「神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト4、みつけ南プロジェクト～コミュニティデザイン、スペースデザイン、コミュニティマネジメント」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2007」』、神戸芸術工科大学、2008、<http://kiyou.kobe-du.ac.jp/07/report/05-01.html>、2011年10月15日確認
- 齊木崇人他、「神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト5、みつけ南プロジェクト2、てらいいプロジェクト1～コミュニティデザイン、スペースデザイン、コミュニティマネジメント」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2008」』、神戸芸術工科大学、2009、<http://kiyou.kobe-du.ac.jp/08/report/08-01.html>、2011年10月15日確認
- 谷口文保、「環境芸術ワークショップの報告2000-2002」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2002」』、神戸芸術工科大学、2003
- 齊木崇人他、「神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト6、てらいいプロジェクト2」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2010」』、神戸芸術工科大学、2010、http://kiyou.kobe-du.ac.jp/wp-content/uploads/2010/11/6_saiki.pdf、2011年10月15日確認

齊木崇人、「みつけプロジェクトの実験 ニューガーデン
シティ舞多聞」、『スプリングトーク春のレクチャーシリー
ズ 03』、神戸芸術工科大学、2011年4月1日

研究協力者

藤巻泰輝(本文執筆補助)、大西久美、角健一郎、寺尾巧
真、前田明寿香、王子瑛梨、小林桂子、藤井茜、木下怜
子、任亜鵬、菊池菜摘、柴田墨斗、和田有沙